

日本ゲノム微生物学会 2024年第1回評議員会 議事次第

日 時： 2024年3月12日（火） 17：45～19：15

会 場： かずさアカデミアホール 会議室101

審議事項

【第1号議案 2023年事業報告】

【第2号議案 2023年学会収支決算】

【第3号議案 2024年事業計画】

【第4号議案 2024年学会予算案】

【第5号議案 第19回年会（2025年）について】

報告事項

1. 第17回年会（2023年・かずさアカデミアホール）収支報告
2. 第18回年会（2024年・かずさアカデミアホール）報告
3. 会費未納会員への対応

日本ゲノム微生物学会 2024年第1回評議員会 議案書

審議事項

【第1号議案 2023年事業報告】

(1) 会員数及び会費納入状況

◆会員数変動(2024/02/28現在)(括弧内は会費納入者数、賛助会員については納入口数)

年	一般会員	学生会員	正会員合計	賛助会員	機関会員
2007年	231 (231)	61 (61)	292 (292)	37 (52)	—
2008年	277 (251)	79 (46)	356 (296)	35 (46)	2 (2)
2009年	331 (282)	105 (56)	436 (338)	33 (44)	2 (2)
2010年	338 (275)	102 (43)	430 (318)	31 (32)	2 (2)
2011年	361 (277)	106 (43)	467 (320)	29 (36)	2 (2)
2012年	378 (278)	137 (60)	515 (338)	29 (32)	2 (2)
2013年	334 (303)	92 (61)	426 (364)	19 (29)	2 (2)
2014年	343 (318)	112 (82)	455 (400)	19 (29)	2 (2)
2015年	352 (321)	117 (70)	469 (391)	17 (23)	2 (2)
2016年	382 (332)	153 (84)	535 (412)	17 (22)	2 (1)
2017年	393 (328)	164 (73)	547 (401)	14 (18)	1 (1)
2018年	377 (319)	140 (77)	534 (396)	13 (13)	1 (1)
2019年	368 (326)	140 (87)	508 (413)	13 (12)	1 (1)
2020年	343 (329)	146 (94)	489 (417)	10 (7)	1 (1)
2021年	355 (321)	165 (90)	520 (404)	12 (10)	1 (1)
2022年	360 (308)	163 (88)	523 (343)	10 (7)	1 (1)
2023年	354 (292)	167 (74)	510 (129)	8 (7)	1 (1)
2024年	336 (96)	165 (39)	501 (135)	8 (2)	1 (0)

◆会費納入状況(2024/02/28現在)

未納年度	一般会員 未納者数	学生会員 未納者数	賛助会員 未納者数	機関会員 未納者数
2022-2024年未納	23	24	1	0
2023-2024年未納	20	29	0	0
2024年未納	197	73	6	1

- (2) 2023年年会の開催
2023年3月8日（水）～10日（金）、田畑哲之会員を責任者としてかずさアカデミアホールで開催した。
- (3) 日本ゲノム微生物学会ニュースレターの発行
ニュースレター26号、27号、28号を発行しました。
2023年1月11日 26号
2023年7月10日 27号
2023年12月28日 28号
藤吉奏会員が編集委員に加わりました。
- (4) 2024年日本ゲノム微生物学会研究奨励賞・若手賞候補者の募集・選考
応募者 奨励賞 2名 若手賞 応募者なし
選考委員 インベイウエン、内山郁夫、小椋義俊、仁木宏典、日原由香子
(敬称略)
受賞者 奨励賞 高田 啓（京都産業大学）
手塚 武揚（北里大学）
- (5) 若手の会活動
1. 若手の会の開催（第15回）
会 場：温泉旅館 おんやど恵
実 施 日：2023年9月18日～9月19日
参加人数：21名
世話人会：黒川 真臣（国立遺伝学研究所）、大林 龍胆（静岡大学）、
森 宙史（国立遺伝学研究所）、前田 海成（東京工業大学）、
富永 賢人（東京大学）
本会から10万円の支援をいただき、全額をゲノム微生物学会若手の会からの
参加学生（13名）の参加費および交通費補助に充てた。
2. HPの刷新
サーバー管理体制の変更に伴い、HPを新しく作成した。
- (6) 学会ホームページの活用
・ 会員からの情報で国内のシンポジウム、求人等の情報を提供した。
(2023年3月以降、2024年3月1日現在)
学会、シンポジウム、講習会情報 11件
求人情報 18件
課題公募情報 14件
研究助成 3件
その他 3件

- ・ 学会情報、年会案内、企業バナー広告掲載を行った。
- ・ ニュースレターの紹介を行った。
- ・ 研究奨励賞、若手賞の募集を行った。

(7) 男女共同参画への取り組み

託児サポートに対して1件の申し込みがあった。

時間あたりの単価：300円/時間

利用予定時間：9時間

【第2号議案 2023年学会収支決算】

2023年収支決算書、財産目録、貸借対照表（資料1）

監査報告書（資料2）

【第3号議案 2024年事業計画】

(1) 日本ゲノム微生物学会ニュースレターの発行

2024年は、29号（春号；7月頃）、30号（秋号；12月頃）を発行予定。

(2) 2025年日本ゲノム微生物学会研究奨励賞・若手賞選考

選考委員：今後選任予定（インさん、日原さんには継続して選考委員をお願いする。

残りの3名については新たに選任する）

(3) 若手の会の開催（第16回）

世話人会：前田 海成（東京工業大学）、黒川 真臣（国立遺伝学研究所）、
富永 賢人（東京大学）、原（和才）沙和（農研機構）、
西野 聡（東京大学）、小高 優人（東京都立大学）
詳細は未定

(4) 学会ホームページの活用

- ・ 学会活動の報告や紹介の場とする。
- ・ 企業バナー広告掲載を賛助会員の特典とし、新規賛助会員の入会を促す。
- ・ 昨年同様、ニュースレターの紹介を継続し、日本ゲノム微生物学会への注目を喚起する。
- ・ 学会公式Xアカウントを開設し、主にホームページ更新の周知を行う。学会員のフォロワーを増やし、学会活動を一般にも紹介する。

(5) 男女共同参画への取り組み

男女共同参画への取り組みとして、年会における託児サポートやアンケートなど、これまでの取り組みを踏襲します。その上で、第七期 会長より、「本会を新たな微生物ゲノムに関する研究を萌芽できる場所にしていきたい」という思いを伺いました。そ

のためには、バクテリアやアーキア、酵母を実験生物として用いる研究者や学生が、年会をはじめとした学会イベントにこれまで以上に参画したいと思う環境づくりが重要だと考えます。男女共同参画への取り組みの中では、特に、様々な事情で年会に参加できない学会員に対するサポートを検討していきます。

直近の課題

- ・ 託児サポートの周知（利用者が少ない）
- ・ 介護補助のサポート（育児と同じくらい介護の問題も予想されるため）

- (6) 第18回年会（2024年）について
- ・ 2024年3月12日（火）～14日（木）にかずさアカデミアホールで開催する。
- (7) 名誉会員推薦の件（資料3）
- (8) その他

【第4号議案 2024年学会予算案】 2024年収支予算案（資料4）

【第5号議案 第19回年会（2025年）について】 2025年3月17日(月)、18日(火)、19日(水) 柿澤茂行会員を代表者としてかずさアカデミアホールで開催

【報告事項】

- (1) 第17回年会（2023年・かずさアカデミアホール開催）収支報告（資料5）
- (2) 第18回年会（2024年・かずさアカデミアホール開催）報告
- (3) 会費未納会員への対応（資料6）

2012年の評議員会における「会費を2年連続で滞納している会員については、会への参加継続の意向を確認するための措置をとり、本人の意向が確認できない場合には、会則第9条にのっとり会長の判断により退会扱いとする」という確認に基づき、昨年12月に本人に通知。

	2年間滞納 (2022-2023)
一般会員（うち連絡先不明）	23(1)
学生会員（うち連絡先不明）	24(0)
合計（うち連絡先不明）	47(0)

日本ゲノム微生物学会 2023年度収支決算書

2023年1月1日～12月31日

■ 収入の部

(単位：円)

科目	2023年度予算額	2023年度決算額	決算額-予算額	備考
1. 会費収入	1,941,000	2,268,000	327,000	
(1) 一般会員	1,575,000	1,770,000	195,000	5,000円×354名
(2) 学生会員	96,000	83,000	-13,000	1,000円×83名
(3) 賛助会員	240,000	360,000	120,000	30,000円×12口
(4) 機関会員	30,000	30,000	0	30,000円×1団体
(5) 前受金	0	25,000	25,000	一般会員@¥5,000円×5名
2. 雑収入	30	21	-9	
(1) 利息	30	21	-9	
(2) その他	0	0	0	
当期収入合計	1,941,030	2,268,021	326,991	
前年度繰越金	5,314,030	5,314,030	0	
本年度収入合計	7,255,060	7,582,051	326,991	

■ 支出の部

科目	2023年度予算額	2023年度決算額	決算額-予算額	備考
1. 事業費	1,587,800	1,271,958	-315,842	
(1) 年会援助金	1,000,000	1,000,000	0	
(2) 研究奨励賞経費	50,000	40,398	-9,602	記念品費
(3) 若手の会援助金	100,000	100,000	0	
(4) 会報発行費	30,000	23,760	-6,240	ニューズレター編集用ソフトウェアのサブスクリプション契約
(5) 男女共同参画費用	200,000	0	-200,000	
(6) HP作成費	100,000	0	-100,000	
(7) 評議員選挙費用	107,800	107,800	0	評議員選挙Web投票システム費
2. 管理費	808,250	809,670	1,420	
(1) 事務委託費	561,000	515,203	-45,797	1～12月分（9月より新料金）
(2) 会議費	30,000	3,988	-26,012	評議員会・総会資料作成費
(3) HP管理費	107,250	168,850	61,600	1～12月分（9月より新料金）、ドメイン管理費
(4) 一般管理費 ① 会費督促費	30,000	3,666	-26,334	
② 旅費	50,000	102,300	52,300	第17回年会事務局出席交通費
③ 通信費：年会用事務局通信費	5,000	0	-5,000	
④ 通信費：学会事務局通信費	5,000	1,185	-3,815	
⑤ 消耗品費	5,000	783	-4,217	
⑥ 振込手数料	15,000	13,695	-1,305	振込手数料、郵便通知料金
3. その他	300,000	0	-300,000	
当期支出合計	2,696,050	2,081,628	-614,422	
次年度繰越金	4,559,010	5,500,423	941,413	
本年度支出合計	7,255,060	7,582,051	326,991	

日本ゲノム微生物学会 貸借対照表

2023年12月31日現在

借 方		貸 方	
勘定科目	金額	勘定科目	金額
流動資産			
郵便振替	3,824,941	次年度繰越金	
普通預金	1,351,297		
郵便貯金	324,185		5,500,423
			前年度繰越金 5,314,030
			本年度収支差額 186,393
合 計	5,500,423	合 計	5,500,423

日本ゲノム微生物学会 財産目録

資産の部

2023年12月31日現在

勘定科目	摘 要	金額
郵便振替	飯田橋郵便局 00120-2-742359	3,824,941
普通預金	三井住友銀行飯田橋支店（普） 6842379	1,351,297
郵便貯金	飯田橋郵便局 008支店（普） 9795781	324,185
合計		5,500,423

第17回年会の残金586,864円は2023年度中に本学会への返金が間に合わなかったため、2024年度に計上いたします。2024年1月30日に本学会の口座（三井住友銀行飯田橋支店（普） 6842379）へ返金が完了してます。

監 査 報 告 書

日本ゲノム微生物学会

会長 大島 拓 殿

日本ゲノム微生物学会の2023年における会計報告書は
監査の結果、適正であると認められます。

令和 6 年 2 月 20 日

会計監査 阿部 貴志



監 査 報 告 書

日本ゲノム微生物学会
会長 大島 拓 殿

日本ゲノム微生物学会の2023年における会計報告書は
監査の結果、適正であると認められます。

令和 6 年 3 月 5 日

会計監査

馬場 知哉



日本ゲノム微生物学会名誉会員推薦状

推薦者： 朝井 計

東京農業大学・生命科学部・バイオサイエンス学科・教授

ka206168@nodai.ac.jp

名誉会員候補者： 小笠原 直毅

奈良先端科学技術大学院大学・名誉教授

nogasawa@gmail.com

候補者略歴

1947 年 高知県生まれ

1970 年 東京大学教養学部卒業

1975 年 東京大学理学研究科博士課程単位取得退学（理学博士）

1975 年 金沢大学がん研究所助手

1985 年 大阪大学医学部講師

1993 年 奈良先端科学技術大学院大学教授

2017 年 奈良先端科学技術大学院大学名誉教授

2023 年 瑞宝中綬章受章

推薦理由

小笠原直毅会員は分子遺伝学・分子生物学、及びゲノム生物学の礎を築いた代表的な研究者である。枯草菌の染色体複製機構を分子レベルで解析するにあたり、まだ国内でも稀有なクローニング技術・DNA塩基配列技術をいち早く取り入れ、DNA複製開始領域を他の細菌と比較解析するなど、当時として革新的な研究を実施している。研究リーダーとして、ミレニアムプロジェクト等の大型研究を立ち上げ、微生物ゲノム科学を医科学、情報科学等の異分野と融合させ、現在のゲノム生物学の基礎を確立した。国内での活躍に限らず、欧州研究グループとの懸け橋となり、日欧国際共同プロジェクトにおいて中心的な役割を果たした。また、我が国の微生物ゲノム研究の進展を促進することを目的として、ゲノム微生物学会の創設に深く関わり、第2期と第3期の4年間の長きにわたり会長を務めた。

以上のように小笠原直毅会員は、微生物ゲノム研究と日本ゲノム微生物学会の象徴的な存在であり、日本ゲノム微生物学会名誉会員にふさわしい業績と活動歴を有していると考えここに推薦する。

2024年度収支予算書

2024年1月1日～12月31日

日本ゲノム微生物学会

収入の部

(単位:円)

費目	2023年度決算額	2024年度予算額	予算額-決算額	備考	備考2
1. 会費収入	2,268,000	1,884,000	-384,000		
一般会員	1,770,000	1,530,000	-240,000	306名×¥5,000	会員数340名納入率90%で計算。
学生会員	83,000	84,000	1,000	84名×¥1,000	会員数140名納入率60%で計算。
賛助会員	360,000	240,000	-120,000	8団体8口×¥30,000	会員数8団体納入率100%で計算。
機関会員	30,000	30,000	0	1機関×¥30,000	会員数1団体納入率100%で計算。
前受金	25,000	0	-25,000		
2. 雑収入	21	586,894	586,873		
利息	21	30	9		
その他	0	586,864	586,864	第17回年会残金	
当期収入合計	2,268,021	2,470,894	202,873		
前年度繰越金	5,314,030	5,500,423	186,393		
本年度収入合計	7,582,051	7,971,317	389,266		

支出の部

費目	2023年度決算額	2023年度予算額	予算額-決算額	備考	備考2
1. 事業費	1,271,958	1,480,000	208,042		
年会援助金	1,000,000	1,000,000	0	18回かずさ年会援助金	
研究奨励賞経費	40,398	50,000	9,602	賞状・記念品代、選考委員会開催経費	
若手の会援助金	100,000	100,000	0		
会報発行費	23,760	30,000	6,240		
男女共同参画費用	0	200,000	200,000	託児サポート費用等	
HP作成費	0	100,000	100,000		
評議員選挙費用	107,800	0	-107,800		3年に一度実施(次回2026年)
2. 管理費	809,670	964,510	154,840		
事務委託費	515,203	484,110	-31,093		
会議費	3,988	30,000	26,012	評議員会・総会開催経費	
HP管理費	168,850	290,400	121,550	ドメイン管理費、HP更新管理費	
一般管理費	121,629	160,000	38,371		
会費督促費	3,666	30,000	26,334		
旅費	102,300	100,000	-2,300		
通信費①(年会用事務局荷物発送)	0	5,000	5,000		
通信費②(学会事務局通信費)	1,185	5,000	3,815		
消耗品費	783	5,000	4,217		
振込手数料	13,695	15,000	1,305		
3. 予備費	0	300,000	300,000		
その他	0	300,000	300,000		
当期支出合計	2,081,628	2,744,510	662,882		
次年度繰越金	5,500,423	5,226,807	-273,616		
本年度支出合計	7,582,051	7,971,317	389,266		

第17回日本ゲノム微生物学会年会収支報告書

会計期間：2023/01/01～2023/12/31

収入の部	金額	備考
1. 参加費収入	101,000	
2. 展示収入	1,650,000	
3. 学会本部援助金	1,000,000	
4. バス代	205,100	
5. 弁当代	152,000	
6. 利息	5	
収入合計	3,108,105	

支出の部	金額	備考
1. 会場費	978,140	
2. バスチャーター費	778,500	
3. 講演謝金	44,548	
4. バス代	149,172	
5. アルバイト代	132,000	
6. 弁当代	169,560	
7. 消耗品費	101,306	
8. 振込手数料その他	3,015	
9. 業務委託費用	165,000	
支出合計	2,521,241	

収支差額	586,864	
------	---------	--

上記 第17回年会収支報告書の監査の結果、適正であると認めます。

2023年12月31日

2023年末2年間滞納 退会候補者

	会員番号	氏名	会員種別	所属機関
1	SG-0757	浅野 亮樹	一般	新潟食料農業大学
2	SG-0222	跡見 晴幸	一般	京都大学大学院
3	SG-1399	池内 暁紀	一般	トヨタ自動車株式会社
4	SG-0634	内山 純爾	一般	東京理科大学
5	SG-1038	大田 篤	一般	京都大学大学院
6	SG-0767	尾花 望	一般	筑波大学
7	SG-0928	貝沼 章子	一般	東京聖栄大学健康栄養学部食品学科
8	SG-1381	片平 悟史	一般	トヨタ自動車株式会社
9	SG-1005	加藤 広海	一般	東北大学
10	SG-1288	岸田 康平	一般	不明
11	SG-1071	甲賀 栄貴	一般	奈良先端科学技術大学院大学
12	SG-1382	幸田 勝典	一般	トヨタ自動車株式会社
13	SG-1386	杉本 広樹	一般	トヨタ自動車 株式会社
14	SG-1383	曾我 直樹	一般	トヨタ自動車
15	SG-0729	中村 建介	一般	前橋工科大学
16	SG-1385	名倉 理紗	一般	未来創生センター Rフロンティア部
17	SG-0988	久恒 順三	一般	国立感染症研究所
18	SG-0366	広岡 和丈	一般	福山大学
19	SG-0356	藤澤 貴智	一般	大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立遺伝学研究所
20	SG-0842	宮本 健太郎	一般	ミヤリサン製薬株式会社
21	SG-1372	山崎 聖司	一般	大阪大学
22	SG-1417	山本 治樹	一般	名古屋大学
23	SG-0331	和田 崇之	一般	大阪市立大学
24	SG-1425	伊藤 孝輔	学生	九州大学薬学部分子生物薬学分野
25	SG-1424	伊藤 光瑠	学生	法政大学
26	SG-1410	指宿 幸紀	学生	富山県立大学
27	SG-1414	大滝 世和	学生	兵庫県立大学
28	SG-1395	大橋 陸実	学生	東京農業大学農学研究科醸造学専攻醸造環境科学研究室
29	SG-1426	加藤 達弘	学生	茨城大学大学院 農学研究科 農学専攻
30	SG-1197	川原 昌太郎	学生	東北大学大学院生命科学研究科
31	SG-1061	川目 貴裕	学生	東京工業大学
32	SG-1286	岸本 麻衣	学生	北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター
33	SG-1384	櫛田 和花奈	学生	早稲田大学先進理工学研究科電気・情報生命専攻
34	SG-1406	坂本 幸子	学生	筑波大学大学院生命環境科学研究科
35	SG-1396	関口 綾夏	学生	東京農業大学大学院農学研究科醸造学専攻
36	SG-1444	関家 紗愛	学生	東京大学
37	SG-1402	高島 綾	学生	東京大学生物生産工学研究センター
38	SG-1138	竹内 真理子	学生	東京工業大学
39	SG-1398	近田 大基	学生	立教大学院 理学研究科 生命理学専攻
40	SG-1320	中村 泰輔	学生	東京大学生物生産工学研究センター環境保全工学部門
41	SG-1401	轟 宇濃	学生	東京工科大学大学院
42	SG-1412	西山 知広	学生	富山県立大学院 工学部 生物工学専攻
43	SG-1436	萩原 雅文	学生	東京工業大学生命理工学部
44	SG-1418	長谷川 佳澄	学生	東京理科大学大学院 理学研究科 科学教育専攻
45	SG-1380	Fu Jieyang	学生	東京工業大学
46	SG-1329	逸見 裕太郎	学生	東北大学
47	SG-1231	藁科 友朗	学生	慶應義塾大学

2024 年 2 月 6 日

2024 年度 日本ゲノム微生物学会 若手賞・奨励賞選考委員会報告書

大島 拓日本ゲノム微生物学会会長より指名のあった選考委員 5 名は、2024 年度 日本ゲノム微生物学会 若手賞・奨励賞選考を行いその結果を報告する。

1 選考経緯

日本ゲノム微生物学会では、2023 年度研究奨励賞・若手賞を募集し、奨励賞に 4 名の応募があった。残念ながら若手賞への応募はなかった。

2 月 2 日に選考委員会をオンラインで開催し、昨年度に引き続き仁木委員を委員長に指名し選考委員会を開催した。昨年度の選考方針を引き継ぎ、研究奨励賞では、学会への貢献度、研究業績、ゲノム微生物学研究へのインパクト、及び研究の独自性、創造性について評価して、それぞれの受賞者を決定することにした。

応募書類をもとに、各応募者について選考を実施した結果、最終的に研究奨励賞 2 名を選出した。

奨励賞	高田 啓 (たかだ ひらく)	会員	推薦者	吉川 博文	会員
奨励賞	手塚武揚 (てづか たけあき)	会員	推薦者	大西 康夫	会員

2. 選考理由

奨励賞 高田 啓 会員

東京農業大学応用生物科学部バイオサイエンス学科在学時に2008年に本学会に入会し、修士であった2011年に初めてのポスター発表を行った。翌年の2012年にはポスター発表で優秀発表賞を受賞している。以後も学会発表を続け2014年には口頭発表を行っている。海外留学を終え、2021年に再び口頭発表を行っている。加えてこれまでに共同発表者としての9回の発表を行っている。また第10回・第11回の日本ゲノム微生物学会・若手の会を世話人として運営した。以上のとおり、高田会員の本学会への貢献は高いものである。

高田会員は大学院生時にゲノム情報を活用し、枯草菌をモデルにバクテリアの細胞分裂と細胞膜合成の共役現象の解明に取り組んだ。その後、バクテリアの転写制御に関する研究に従事し生化学的解析の基礎を学び、立教大学の末次正幸教授のもとでは大腸菌DNA複製機構の試験管内再構成を用いた合成生物学的研究に従事した。バクテリア遺伝学と生化学の分野で研鑽を積み、スウェーデンのウメオ大学が公募していたフェローシップに応募し、自ら研究課題を提案し研究を行った。ウメオ大学では翻訳反応の状態をモニターする緊縮応答

機構の解明に取り組み、枯草菌RSHタンパク質であるRelおよびリボソームの精製法を確立し、生化学的手法を用いて緊縮応答の詳細な分子メカニズムを世界で初めて明らかにすることに成功した。さらに研究の関心を翻訳品質管理機構に向け、バクテリアでのポリアラニン付加の分子機構を明らかにしている。近年は抗生物質耐性のメカニズムに関係した枯草菌ABC-Fタンパク質(VmlR)に着目しVmlRがリボソームに直接結合し、抗生物質耐性に寄与することを明らかにしている。

こうした一連の研究成果は筆頭著者としてすでに11報の論文として国際誌に発表している。その中の4報で責任著者を務め、すでに独立した研究者として積極的に研究活動を展開している。以上のように、学会への貢献度、研究の独創性、業績、そして将来性を総合的に考慮し、将来有望な研究者として奨励賞にふさわしいと委員全員が判断した。

奨励賞 手塚武揚会員

東京大学 大学院農学生命科学研究科 応用生命工学専攻 修士課程在籍の2009年に本学会でポスター発表を行い、東京大学 大学院農学生命科学研究科 応用生命工学専攻 助教時の2013年, 2014年にポスター発表している。さらに2019年から2021年にかけて3年連続して口頭発表した。また共同発表者として2回の発表に名を連ね大学院生時代より本学会で活発に活動し学会に貢献している。

手塚会員は大学院の頃より放線菌の研究に従事、特に希少放線菌 *Actinoplanes missouriensis* の分子遺伝学的研究には約12年間と長期にわたって研究を続け、この間に大幅な形質転換効率の向上に成功し本放線菌の研究の発展に技術的な革新をもたらした。そして、mRNA-Seqによる網羅的な遺伝子発現解析およびChIP-Seqによる転写因子の標的遺伝子群の網羅的解析を行い、さらに本菌の形態分化制御の研究にも手を広げ、要となる制御因子の機能を解き明かし、これにより本菌の形態分化に重要な機能をもつ新たな遺伝子を数多く発見をすることに成功している。また *A. missouriensis* の大きな特徴である遊走子についても精力的に研究を行い、高速運動の分子機構解析、走化性遺伝子クラスターの機能解析、べん毛形成時の新規アセンブリータンパク質の発見と機能解析、べん毛回転の新規ブレーキタンパク質の作用機構の解明、線毛の観察および機能解明など、細胞生物学と生物物理学の両アプローチを駆使し興味深い研究成果を挙げている。

こうした一連の研究成果は筆頭著者としてすでに8報の研究論文を国際誌に発表している。加えて11報の論文では責任著者を務め、すでに独立した研究者として国内の放線菌研究を牽引している。以上のように、学会への貢献度、研

究の独創性、業績、そして将来性を総合的に考慮し、将来有望な研究者として
奨励賞にふさわしいと委員全員が判断した。

小椋 義俊
内山 郁夫
日原 由香子
應 蓓文
選考委員長 仁木 宏典